

(新)

(旧)

p. 3

1 博士の学位（課程修了による学位）

(4) 予備審査の申請要件

- ① 学位論文の核となる論文 2 本以上が、予備審査終了時まで、査読制度のある学術雑誌に掲載又は掲載予定として受理されていること（学位論文の核となる論文は、申請者の単著又は主たる著者であるフルペーパーに相当する査読付き論文とする）。

(略)

\* 核となる論文のうち 1 本以上は、本博士後期課程に入学後に投稿し受理されたものであることが望ましい。なお、学位論文の核となる論文の 1 本が受理済み、もう 1 本が投稿中の場合でも予備審査の申請を認める。この場合、投稿中の論文が予備審査終了までに受理されないと、予備審査は不合格となる。

\* 学位論文の核となる論文のうち 1 本については、査読付き国際会議論文や査読付き紀要論文等で可とする。

p. 8

2 博士の学位（早期修了による学位）

(4) 予備審査の申請要件

- ① 学位論文の核となる論文 2 本以上が、査読制度のある学術雑誌に掲載又は掲載予定として受理されていること（学位論文の核となる論文は、申請者の単著又は主たる著者であるフルペーパーに相当する査読付き論文とする）。

p. 3

1 博士の学位（課程修了による学位）

(3) 予備審査の申請要件

- ① 学位論文の核となる論文 2 本以上が、予備審査終了時まで、査読制度のある学術雑誌や査読制度のある国際会議録に掲載又は掲載予定として受理されていること（学位論文の核となる論文は、申請者の単著又は主たる著者であるフルペーパーに相当する査読付き論文とする）。

(略)

\* 核となる論文のうち 1 本以上は、本博士後期課程に入学後に投稿し受理されたものであることが望ましい。なお、学位論文の核となる論文の 1 本が公表済み、もう 1 本が投稿中の場合でも予備審査の申請を認める。この場合、投稿中の論文が予備審査終了までに採録されないと、予備審査は不合格となる。

\* 学位論文の核となる論文のうち 1 本が公表済みの場合、もう 1 本については、査読付き紀要で可とする。

p. 8

2 博士の学位（早期修了による学位）

(5) 予備審査の申請要件

- ① 学位論文の核となる論文 2 本以上が査読制度のある学術雑誌に掲載又は掲載予定として受理されていること（学位論文の核となる論文は、申請者の単著又は主たる著者であるフルペーパーに相当する査読付き論文とする）。

(略)

\* 核となる論文のうち1本以上は、本博士後期課程に入学後に投稿し受理されたものであること。

p. 12

### 3 博士の学位（論文博士による学位）

#### (4) 予備審査の申請要件

学位論文の核となる論文3本以上が査読制度のある学術雑誌に掲載又は掲載予定として受理されていること（学位論文の核となる論文は、申請者の単著又は主たる著者であるフルペーパーに相当する査読付き論文とする）。

本博士後期課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得して退学したものが再入学せず、退学後2年以内に申請する場合は、学位論文の核となる論文2本以上が、査読制度のある学術雑誌に掲載又は掲載予定として受理されていること。ただしこの場合、中間発表を終了していること。

(略)

\* 本博士後期課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得して退学したものが再入学せず、退学後2年以内に申請する場合、学位論文の核となる論文のうち1本については、査読付き国際会議論文や査読付き紀要論文等で可とする。

(略)

\* 核となる論文のうち1本以上は、本博士後期課程に入学後に投稿したものであること。

p. 12

### 3 博士の学位（論文博士による学位）

#### (3) 予備審査の申請要件

学位論文の核となる論文3本以上が査読制度のある学術雑誌に掲載又は掲載予定として受理されていること（学位論文の核となる論文は、申請者の単著又は主たる著者であるフルペーパーに相当する査読付き論文とする）。

博士後期課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得して退学したものが再入学せず、退学後2年以内に申請する場合は、学位論文の核となる論文2本以上が、査読制度のある学術雑誌や査読制度のある国際会議録に掲載又は掲載予定として受理されていること。ただしこの場合、中間発表を終了していること。

(略)

\* 博士後期課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得して退学したものが再入学せず、退学後2年以内に申請する場合、うち1本は査読付き紀要で可とする。